

食肉衛生検査所だより

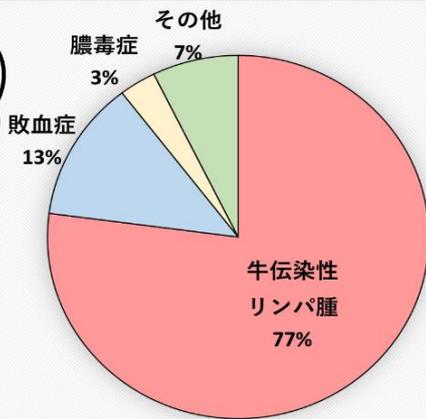
令和4年度
◆第2号◆

福岡市食肉衛生検査所では、農場から運ばれてきた牛と豚を、検査員（獣医師）が一頭ずつと畜検査をしています。検査で病変が見つかった場合、一部廃棄（病変部のみを廃棄すること）や、全部廃棄（重度の病気により一頭丸ごと全て廃棄すること）をおこないます。R3年度の結果は以下のとおりでした。

| R3年度 | 検査頭数 | 一部廃棄頭数 | 全部廃棄頭数 |
|------|---------|--------|--------|
| 牛 | 27,841 | 20,715 | 96 |
| 豚 | 123,604 | 93,335 | 163 |

豚で最も多く見られた「敗血症」については第1号をご覧ください。

牛の全部廃棄の理由

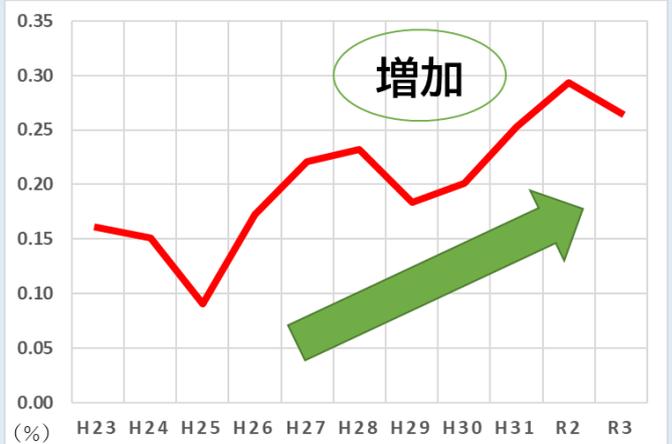


今回は牛の病気について説明します。



牛の全部廃棄の理由で最も多い病気は、「牛伝染性リンパ腫」でした。

全頭数に対する牛伝染性リンパ腫の割合



検査した全ての牛に対する「牛伝染性リンパ腫」の割合は、年々増加傾向にあります。

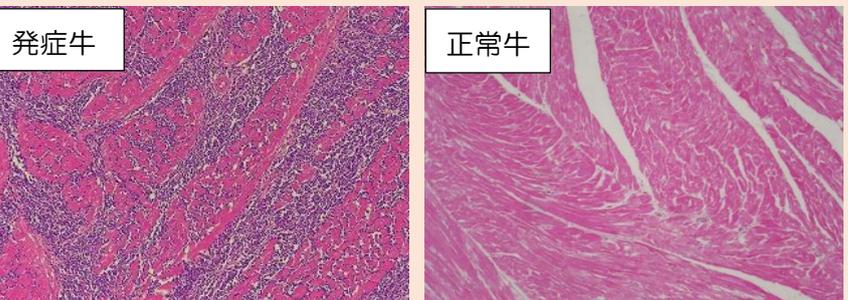
「牛伝染性リンパ腫」は、リンパ球の悪性腫瘍（いわゆる“がん”）です。牛伝染性リンパ腫ウイルス感染牛の数が発症します。解体の前にリンパ節の腫大などで気づくとは限らず、解体後検査で内臓などを検査し初めて発症を疑い、精密検査で診断され、全部廃棄となる場合が多いです。

解体後検査



心臓などの臓器が腫れていることから「牛伝染性リンパ腫」を疑い、精密検査を行います。

精密検査（病理検査）



腫瘍細胞が、複数の臓器に入りこんだ様子が見られた場合、「牛伝染性リンパ腫」と診断し、全部廃棄となります。左は発症牛の心臓、右は正常な心臓の顕微鏡写真です。青紫色に染まる腫瘍細胞が筋肉の間に入り込んでいます。



安全なお肉を提供できるよう、検査を続けていきます。

福岡市食肉衛生検査所
〒812-0055
福岡市東区東浜2-85-14
(TEL) 092-651-3404
(FAX) 092-651-9015